

③ 不用になったとき

心得
その1

ごみを出すときは、できるだけ減量しましょう。

ごみを減らすために大切なことは、モノを買うとき、使うときから、ごみとなった時のことを考えることです。

大量に消費して大量にリサイクルすることは、多くのエネルギーとお金がかかります。

また、ごみの排出量をゼロにすることも容易なことではありません。

ごみを出すときは、できるだけ排出するごみの量を少なくしましょう。



ワンポイント

家庭から出た食品廃棄物は、水気を切って廃棄しましょう。
生ごみ処理機の利用や生ごみを庭に埋めて堆肥化するなど、できる限り廃棄物として出さない工夫をしましょう。
また、ごみの分別を徹底し、リデュース、リユースに心がけましょう。

3R実践の例

釣りや登山などレジャーに出かけると、どうしてもごみが出てしまいます。

自然の中に放置されたごみは、環境に大きな負荷を与えてしまいます。必ずごみ袋を持参するなどして、ごみを持ち帰りましょう。



心得
その2

生ごみは、できるだけ廃棄物として出さないようにしましょう。

生ごみは、家庭ごみの約 3 分の 1 を占めており、減量の必要性が高いごみの一つです。

生ごみは水分を多く含むことから、腐敗しやすく、長期間放置しておくことが難しいものです。

こうしたことから、生ごみをできるだけ出さないようにし、廃棄物として出てしまったものは、堆肥化などのリサイクルに努めましょう。



3R実践の例

ふた付きバケツ 3 個と大きめのプランター 1 個を使い、マンションのベランダで生ごみを処理しています。生ごみの大部分は、野菜くず、茶殻、コーヒーかす、果物の皮などです。肉類や魚のあらなどは、ハエ発生の原因となるので入れないようにします。

腐敗を防ぐために水気を切った生ごみをふた付きバケツに入れ、その中にプランターの土を混ぜた後、プランターの土をまんべんなくかぶせてスコップなどでしっかり押さえます。

次の日のごみもそこに加えて、バケツ全体をまんべんなく混ぜ、また土でふたをします。この工程をバケツが一杯になるまで続けます。

バケツが一杯になったら、ふたをして 1 ヶ月ほどねかせます。ねかせた土は、プランターに戻します。

～ の工程を繰り返します。

(刈谷市 Y さん)



ごみは正しく分別しましょう。

リサイクルのスタートは家庭での分別です。

分別がしっかりされていないと、不純物が混じり、せっかく分けた資源がリサイクルできず、ごみとなってしまふおそれがあります。

ごみを減らすには家族の協力が欠かせません。どのようにごみを分別すればいいのかわかり、普段からきちんと話し合っておくことも大切です。

ごみをできるだけ減らし、出てしまったごみは、お住まいの市町村の区分に従って正しく分別しましょう。



ワンポイント

使えるものでも捨ててしまえば、それはただの「ごみ」になってしまいますが、そのまま製品として再利用できなくても、リサイクルを行って製品の原材料として活用できるものはごみではありません。

古新聞や牛乳パックなどの古紙、鉄やアルミニウムからできている空き缶などは、みなさんも良くご存知のリサイクル例です。分別することで、ごみは資源に生まれ変わります。

3R実践の例

我が家では、ごみの分別にカラーボックスを利用しています。

緑のボックスは生ごみ、青のボックスは可燃ごみ、黄のボックスは不燃ごみ、といった具合に分けています。おじいちゃんから幼稚園児の子どもまで、家族8人の全員が分別を徹底できるようにするための工夫です。(額田郡Sさん)



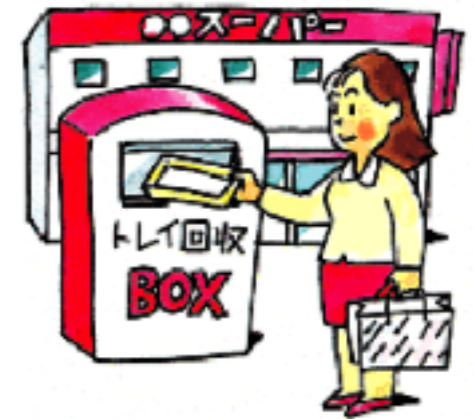
資源ごみ回収に協力しましょう。

新聞紙や雑誌などの古紙、空き缶などの金属くずは有効な資源です。

これらは主に、市町村や地域単位で行われる分別回収、子ども会やPTAが行う集団回収などにおいて収集され、リサイクルされています。

また、スーパーマーケットなどでは、食品トレーやペットボトルの回収箱が設置されていることが多くなりました。

これらの資源回収に積極的に協力しましょう。



ワンポイント

あきびんと一緒にガラス製品を資源ごみ回収に出さないようにしてください。

鍋のふたや電子レンジ用の食器などに使われている耐熱ガラスの素材は、ガラスびんとは種類が異なるからです。混ざったままりサイクルすると新しいびんを作ることができません。



3R実践の例

地域で協力して集団回収を始めてはどうでしょうか。回収業者との連絡、回収場所の確保、PRなどの係りを当番制にするとよいでしょう。また、集団回収に対して市町村が補助している場合もあります。

フリーマーケットを利用しましょう。

本当はまだ使えるものでも、安易に捨てたりしていませんか？
ひと昔前までは、例えば不要になった衣類は、親戚や近所の子どもたちに譲るなどが盛んでしたが、最近では少なくなったようです。

そこで、近年盛んになってきたのが、フリーマーケットです。

市町村やスーパーで定期的開催されているフリーマーケットも多くあります。

さあ、あなたもフリーマーケットの開催情報を入手し、自分のお店を開いてみませんか。



ワンポイント

リサイクルショップやフリーマーケットで引き取られない衣服は、地元の集団回収などに出し、リサイクルに努めましょう。古繊維は主に工業用の雑巾、毛布、生地、軍手などに再利用されます。

また回収後の古着類は、海外で中古衣料としてリユースされるものもあるので、出すときにはボタンやジッパーなどを取り除いたりしないようにしましょう。



3R実践の例

フリーマーケットの開催などを契機に、長年使用せず押し入れで眠っている衣料は、思い切って整理しましょう。近所の人なども呼んでちょっとしたフリーマーケットを開催すれば、地域とのコミュニケーションも深まります。

できることから始めよう 「チェック＆アクション」

これまでお示しましたように、3Rの取組は決して難しいことではなく、日常生活において誰でも取り組むことができる行動です。

「ごみを出さない」、「ごみを資源に変える」ためには、誰かがやってくれるだろうという消極的な気持ちではいけないのです。

最も大切なことは、私たち一人ひとりが自覚を持ってできることを積み重ねていくことです。

そこで、次ページの取組チェック表で、3Rに対する現在の取組状況を自己評価してください。

そして、これからも定期的にチェックを行い取り組んでいただくようお願いします。



「リサイクル工作教室」で廃プラスチックからキーホルダーを作る子供たち
(県環境調査センター)